

当院における緊急・急変時対応の現状把握と今後の課題

【背景 目的】当院の診療放射線技師は全部で 51 名いて、その中で日勤帯の業務として勤務しているのは 5 名ほどであり、半数以上は夜間・休日のみの対応となっている。日本循環器学会ガイドラインでは STEMI 症例で door-to-balloon time は 90 分以内を推奨しており、特に夜間、休日は不慣れな中で迅速な対応が求められる。このような中でチームとして緊急・急変時対応訓練を行いそれぞれの役割を確認するとともに基礎的な知識を理解する必要があると考え訓練を実施した。そこで訓練をもとに現マニュアルの見直し・改訂を図る。【方法】医師 2 名、看護師 1 名、臨床工学技師 1 名、診療放射線技師 1 名の普段の人員体制で緊急・急変シミュレーションを行う。その他スタッフは周囲でモニタリングを行う。ミーティングを開き、それぞれのスタッフから意見を集め、問題点の見直しを図った。【結果】心臓カテーテル検査での緊急・急変では限られた人員での対応が必要である。そのため、各スタッフが基礎的な知識を理解し的確に行動する必要がある事が再認識でき、それぞれの職種の役割が明確化し問題点を解決することで緊急・急変時のスムーズな対応をすることができマニュアルの改訂に繋がった。しかしまだ不十分な部分は何度も見直し、訓練を行う事で迅速に対応出来るようにしていかななくてはいけないと思われた。【結語】心臓カテーテル検査においてコミュニケーションやチームワークが生まれ緊急時だけではなく、普段の検査から良質な医療の提供につながっている。